



丹後地域 第 28 号

リハビリ通信

～うさぎのプランコ～

編集/発行
丹後地域リハビリテーション支援センター
(公益財団法人 丹後中央病院内)
〒627-8555 京丹後市峰山町杉谷 158-1

TEL 0772-62-8301 FAX 0772-62-8302
e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com
<http://www.tangohp.com/tangoshien.html>

ホームページより PDF 形式でご覧いただくことができます

第 4 回 AM 事例検討会 「在宅ケアでのセラピストの役割」開催報告

日 時：平成 30 年 2 月 24 日（土）
時 間：9 時～12 時
会 場：丹後中央病院 ふたばホール
講師：野尻晋一氏（理学療法士）
参加者数：24 名



連携・協働のハードルとして地域連携・協働の難しさは共通言語での共有（伝わるニュアンス）が難しいことが挙げられる。また、生活期（維持期）チームへの連携は医療職 1 チームから医療職、福祉職、一般職といった多チームへの情報共有が必要となる。これまでは看護・介護・リハといった場面を共有し課題を共有してきたが、一連の生活行為を様々な専門職種で関わっていくようになってきており、様々な職種が関わることでたくさんの視点が集まるというお話など、介入事例や訪問時の様子の写真を交えて説明いただいた。また、地域で利用者さんの離床のためのスイッチを見つけ、我われが押せる存在になっていくことが大切というお話もありました。

第 4 回 PM 事例検討会 「地域連携の極意～熊本震災の経験から～」開催報告

日 時：平成 30 年 2 月 24 日（土）
時 間：13 時～16 時
会 場：丹後中央病院 ふたばホール
講師：野尻晋一氏（理学療法士）
参加者数：27 名



熊本城（シンボル）の崩壊は精神的なダメージが大きかった。夜勤帯の震災では夜勤者の負担が大きく、当時の夜勤者は PTSD になり、また、病院も被災しており、足場が組まれるのに約半年かかった。復興に対するプロセスも、自身の健康に対するプロセスもまだ落ち着いておらず、引きずるものがある。

震災が起こると、地域の人は避難施設ではなくても病院に行けば安心と思ってやってくる。施設間での対応も必要になるため、日頃の連絡体制が非常時にも生きる。日頃の連絡体制としてできることをグループワークで意見を出しあい、共有する場となった。



丹後地域リハビリテーション支援センター研修会 開催報告（第 7 回～第 8 回）

第 7 回「住環境と福祉用具」

平成 29 年 12 月 15 日（金）開催
 講師： 曾根 佳子 氏 理学療法士
 （宮津訪問看護ステーション）



47 名の方にご参加いただきました。

研修会直後アンケートより

【今回の研修で一番印象に残ったことは？】

利用者の動線を考えること
新しい介助用具があることが分かって良かった
生活の工夫例
身近なものが使えること
手を出さずに口で介助をする
回収するときはその人にあったサイズ形が大切

【明日から実践しようと思ったことは何ですか？】

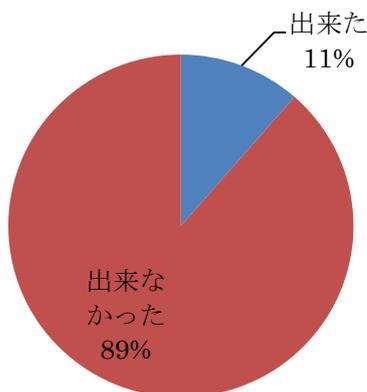
「暮らしやすさ」で見直そうと思います
視点を変える
背もたれのない骨盤サポート型のシャワーチェア 一の提案
環境などの情報収集
利用者さんの住環境の観察をしてみようと思った

【職場で困っていることは何ですか？】 ……回答を、曾根講師に伺いました！！

- Q トイレの座面が低くて背の高いご利用者が座るときに負担になっている
 ⇒A その方の使用時には補高便座を使用してみてはどうでしょうか？
- Q 環境調整やサービスが優秀なため寝たきりの独居生活……
 ⇒A 素晴らしい着目点だと思います。そうですね、サービス利用時には過介助にならないように本人さんの力を生かせるようにしてください
- Q 車椅子が古いので人にあっていない
 ⇒A 長時間車椅子で過ごす方にとっては苦痛かもしれません。新調出来るとよいのですが、そういかない場合は少しでも何らかの工夫点がみつけられると良いですね

第7回アフターアンケート結果(抜粋)

研修会後即実践できましたか？



【なぜ、実践出来なかったか理由をお聞かせください。】

・なかなか、住環境と福祉用具に携われる方がいらっし
 やらなかった ・用具などよくわかったが理解して実践で
 きなかった ・手間、効率、お金、人が足りない。など

【今後、どうすれば実践できると思いますか？】

・時間のある時、職員と一緒に資料を確認して実施出来
 るよう工夫する ・本人様の必要性和家族様の思いを理
 解し福祉用具の正しい使い方を学び、本人様の動作に
 あった物を相談できる人が入れれば対応出来るなど

第 8 回 「 歩 行 」

平成 30 年 1 月 19 日 (金) 開催
 講 師： 梅田 匡純 氏 理学療法士
 (京丹後市立弥栄病院)

57 名の方にご参加いただきました。



研修会直後アンケートより

【今回の研修で一番印象に残ったことは？】

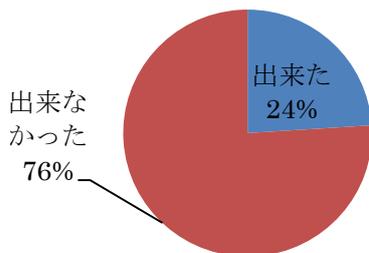
- バリアフリーを整えることで介助者との距離が生まれる
- 手の向きによって歩行が変わるということ
- 関わる側と利用者側から見た「歩行」の差
- バリアフリー
- 関わる部分をどこにするか、どこを目標にするかを職員間でアセスメントする

【明日から実践しようと思ったことは何ですか？】

- 歩行器などの持ち方を工夫すること
- 利用者さんの体の仕組みを知ること
- 利用者さんの歩行の観察
- 平行棒のつき方を見る
- 歩くことの提案の仕方
- 歩き方を研究し一人ひとりを見てあげたい

第 8 回アフターアンケート結果(抜粋)

研修会后即実践できましたか？



【なぜ、実践出来なかったか理由をお聞かせください。】

- ・業務に戻ると忘れてしまった。・施設での歩行される利用者さんにとって良い方法の内容がなかった。・実践できる対象者がいなかったため。など

【今後、どうすれば実践できると思いますか？】

- ・移動時の見守りの際に実践していきたいです。・何をするか具体的に明確にしておく。など



平成 29 年度 丹後地域リハビリテーション支援センター研修会
 「日常生活にプラスαのリハビリを 2017」
 全 8 回の研修すべてを受講された 19 名の方に、修了証を授与しました。

【参加者の感想】

『全 8 回受講させていただきました。移乗や食事、排泄の面ではちょっとした工夫や気づきもあって大変良かったです。最近の社会の流れや状況なども分かって参加した甲斐がありました。』

と感想を頂きました。次年度は、さらにパワーアップした研修会を開催したいと思います。皆様、ご参加ご協力有難うございました。

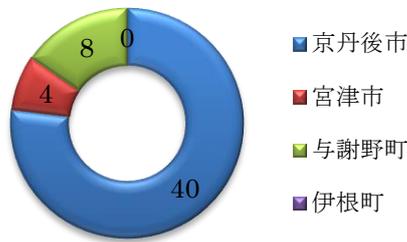
平成 29 年度 事業報告

H30.3.28.現在

訪問相談事業

52 件

依頼地域別件数



相談事業所別件数



地域包括支援センター等に対する助言・相談

45 件

各市町の地域ケア会議やケアマネ会議に参加し、現状や課題の把握や、リハビリテーション支援センターの事業やリハビリについて啓発を行いました。

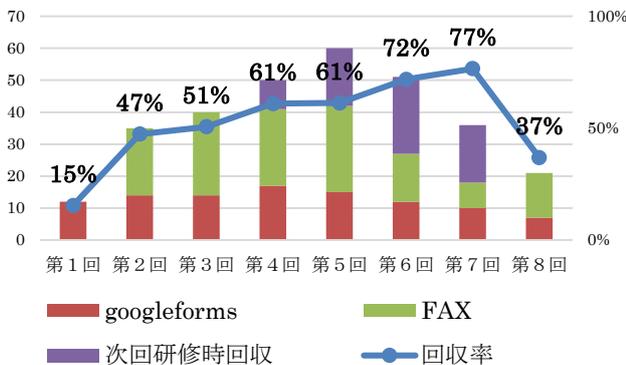
情報提供

- 広報誌 うさぎにプランコ 26 号(9 月)27 号(1 月)28 号(3 月)発行
- ホームページの更新

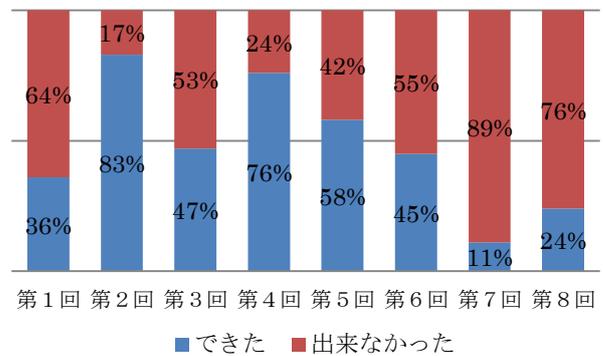
平成 29 年度丹後地域リハビリテーション支援センター研修会 アフターアンケート結果

今年度全 8 回コースの研修会において、研修会後 2 週間～1 ヶ月の間に「アフターアンケート」を実施しました。研修会を主催する私たちと致しましても、研修会後、どれくらい実践に繋がっているのか、また、参加者の皆さんの現場での想いなどを知るべく、皆さんにご協力いただいた次第です。以下に結果をご報告させていただきます。

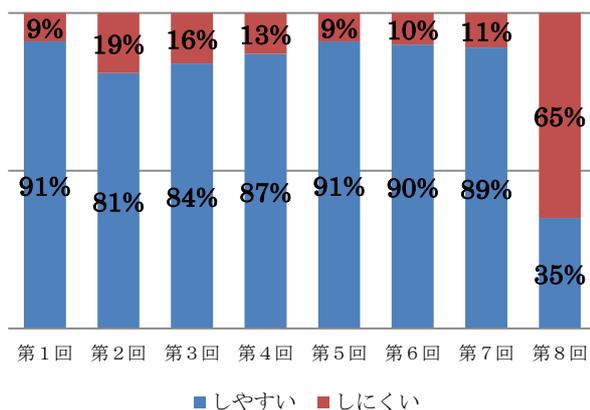
アンケート回収率・回収方法



即実践できましたか？



アフターアンケート回答しやすいですか？



皆さんのご意見より、なかなか「即実践」には繋がらないこともテーマや内容によって多いが、アフターアンケートがあることで、研修会の学びを再度思い起こし、現場で生かすよう資料などを見返したなどの意見も頂きました。アンケートの回答のしやすさなども、研修会のテーマや内容などにより異なるのご意見も頂きました。今後、このアンケートや皆さんのご意見を元に、研修会主催者側の運営方法や、講師の聴講者への伝え方なども貴重なご意見として、今後に生かしていきたいと思ひます。

皆様、ご協力有難うございました。